

NEWS

変わる日本の教育

新学習指導要領で、「ゆとり教育」の終わり？

高校の新学習指導要領が、3月9日、文部科学省により告示されました。

10年ぶりに全面改訂された今回の指導要領は、2013年度入学生から本格適用されますが、数学・理科は2012年度から実施、その他の一部は2010年度から適用されます。

昨年3月に告示済みの小学校・中学校の新指導要領と同じように、10年前の改定で「ゆとり教育」として削られた内容の復活などが進められています。

<http://mainichi.jp/life/edu/guideline/news/20090309ddm041010132000c.html>



小学校から高校までの教育のカリキュラムの見直しは完了しましたが、これで「ゆとり教育」は終わるのでしょうか？

新指導要領のパンフレットには、次のような説明が：

変わらない理念：「生きる力」

新しい指導要領は、現行の要領の理念を引き継ぐとして、「生きる力」を次のように説明しています。

- ◎ 基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
- ◎ 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- ◎ たくましく生きるための健康や体力 など

「ゆとり教育」から「詰め込み教育」へ転換？

『詰め込み教育』への転換ではありません。・・・『ゆとり』とか『詰め込み』とかいうことではなく、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とこれらを活用する力の育成を車の両輪として伸ばしていくことが必要です」としています。

参照：http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm

注目！

新要領で、学力の重要な要素のひとつとして「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」があげられています。

本誌で何度も触れてきましたが、国際と国内の学力試験の結果から、日本の子ども達の弱点として明らかになってきたのが、この学力です。その向上のために、具体的には、「観察・実験、レポートの作成、論述など知識・技能を活用する学習活動」の充実させていくことが、求められています。

私は、この学力を身につけさせるためのトレーニングの有無が日米の教育の最大の違いだと思っています。日本の先生達に真剣に取り組んでもらいたいものです。 (松本)

NEWS

増加続く 大学付属校・提携校

中・高と大学、サバイバルを賭けて！

関西で始まった大学付属校・提携校増加の流れが、関東にも広がり始めています。今後の予定を紹介しましょう。

小学校新設：

同志社国際学院初等部 (2011年)

中学新設：

中央大学附属中学校 (2010年)

早稲田大学高等学院中学部 (2010年)

提携校：

青山学院大学：横須賀学院

明治学院大学：捜真女学校・玉川聖学院・横浜英和女学院

中高一貫校：慶應義塾大学 (2011年・横浜)

インターナショナル・スクール：

同志社高等学園国際部 (K-12、2011年)

合併：

関西学院大学：千里国際学園と合併

(千里国際学園中等部高等部、大阪インター)



私立の中学・高校と大学の協力体制強化が、進んでいます。

中高と大学との協力関係・体制の違いにより、「付属」「提携」だけではなく、「継続」「系属」など、様々な呼び方があります。

協力体制を築く、大学側の目標は「優秀な新入生の定員確保」が第一です。さらに、中高だけではなく、「付属」小学校を増やす理由は、大学を含めた学校法人の「理想の教育」を小学生 (時には幼稚園) から実践したいという希望もあります。もちろん、一定の児童・生徒・学生数を確保して財政的に安定した学校経営を目指すのも大きな理由です。

「提携する」中高側のメリットは進学先の確保です。協力関係を作ると、一定数の卒業生の協力大学への進学が保障されるので、それを期待する中高への受験生の質が向上し、数が増えることとなります。

「うちの大学には、付属校からしか入れないようにする」と豪語した大学の先生がいました。最近の中高と大学の協力関係の広がりを見ていると、そんな可能性も・・・？

「幼稚園から大学院まで」を謳い文句にしている学校で幼稚園をスタートすると、20年以上もひとつの学校で過ごすことになります。

多様性を大切にするアメリカ人には、ちょっと信じられない進路でしょう。皆さんは？ (松本)

ここで紹介した以外にも、数多くの予定や計画 (噂も含めて) があることは間違いありません。(念のために)